



小牛田小学校

リーダー・イン・ミー通信

小牛田小学校のリーダー・イン・ミーの取組を紹介します！

令和3年6月25日 第3号

小牛田小学校ライトハウスチーム

<http://kogota-es.misato-ed.jp/>

第2号では、7つの習慣それぞれについて、紹介しました。第3号は、7つの習慣の根幹に関する示唆に富む考え方について紹介します。

農場の法則

農場に一夜漬けは通用しない。春に種蒔きを忘れ、夏は遊びたいだけ遊び、秋になってから収穫のために一夜漬けで頑張る。そんなことはあり得ない。農場は自然のシステムで動いている。必要な務めを果たし、定まった手順を踏まねばならない。種をまいたものしか刈り取れない。そこに近道はないのだ。(完訳7つの習慣)

イソップ童話のアリとキリギリスの話を知っていても、人は、楽なことを望み、努力を嫌うことがあります。テスト前の一夜漬けもその典型でしょう。皆さんは、一夜漬けで成功したことがありますか？一夜漬けでうまく乗り切れたこともあるかもしれません。でも、日々の積み重ねを怠っていたら、その場は乗り切れてもしっかりと実力をつけていくことはできません。

この農場の法則は、勉強だけでなく、人の行動や人間関係にも当てはまると7つの習慣では教えてくれます。厳しい状況に直面した時にその人の本当の姿があらわれます。本当の誠実さや根本的な人格の強さがなければ、周囲からの信頼は得られないでしょう。同じように一夜漬けの小手先の技術では、長続きする盤石な人間関係を築くことは難しいことでしょう。

成長と変化の原則

すべての生命に、成長と発達のしかるべき順序がある。子供はまず寝返りを覚えてから、座り、はいはいすることを学ぶ。その次に、歩き、走ることができるようになる。どの段階も重要であり、時間がかかる。省略できる段階は一つもない。

人生の様々な段階で能力を開発するのも同じである。ピアノが弾けるようになることも、同僚とうまくコミュニケーションを取れるようになることも、段階を踏まなければならない。これは個人にも、夫婦や家族にも、組織にも当てはまる原則である。(完訳7つの習慣)

「天才は、1%のひらめきと99%の努力でできている」という言葉を聞いたことがあります。ゴルフでホールインワンを決めた選手を「彼女は、幸運の女神に微笑まれるのに十分なだけの練習を積み重ねてきた」と称賛したという話も聞いたことがあります。努力の大切さに異論をはさむ余地はありません。

テニスの初心者が、格好よく見せたいがために上級者のようにプレーしようとしたらどうなるでしょう。ポジティブ・シンキングだけでプロに太刀打ちできるのでしょうか。ピアノを習い始めたばかりなのにリサイタルを催せるほどの腕前だと友人に話したらどうなるでしょう。答えは簡単です。発達のプロセスを無視し、途中を省略することはできません。テニスの試合もピアノのリサイタルも悲しい結果となるでしょう。

人間関係も同じです。初対面の人に旧知の友人のように接することはできません。信頼を得て、協力関係を結ぶには、少しずつ段階を踏んでいく必要があるのです。



リーダー・イン・ミー こぼれ話

5年6年の交流で、Win-Winを体験させたい

「花山合宿に行った5年生のために何かできないかな」この一言がきっかけでした。「よい思い出になったね」「お疲れ様」の気持ちを伝えたい。5年生に喜んでほしい。その思いを胸に、6年生はサプライズの内容を自分たちで話し合い、考え、準備しました。担任の手を借りず、全て自分たちで行いました。

6年生からの気持ちのこもった温かいサプライズに嬉しくなった5年生。「何か6年生に恩返しができないかな。」と始まった恩返しサプライズ。感謝の気持ちを伝える方法を考え、子供たちは、手紙や絵で6年生に対する感謝の気持ちを表現しました。

5年生は、

6年生に「ありがとう」の感謝の気持ちを伝えることをゴールに各グループ一生懸命考えていました。出来上がった手紙をお互いに読み合っていて確認している班が多く、相手の立場に立って考えることの大切さに自分達から気づくことができました。

私は、最近花山合宿から帰ってきて、6月4日にまだ疲れているじょうたいで学校に行きました。その時、前から入って下さいと紙がはっていたので、前のとびらから入ったら、黒板に「花山合宿おつかれさま!!」と書いてありました。とても気持ちがほっこりしました。それだけでなく、その後、プレゼントまでもらいました。とてもうれしく、来年同じことをしてあげられるようにしたいと思いました。

今日、6年生さんに「ありがとう」の気持ちを込めてメッセージカードをわたしに行きました。わたす方の「ありがとう」という気持ちともらう方の「ありがとう」という気持ちが、しっかり伝わってきました。とてもうれしく「ありがとう」という気持ちになりました。

5年1組 木村 汐里

こんなに、すばらしくて、ごうかなサプライズを私は見たことがなかったの、とてもうれしいという気持ちと、共にありがとうという気持ちになりました。

まだまだ先ですが、来年は最高学年なので、全校をひっぱっていき、みんなの役に立てるような、6年生になりたいです。

そのためには、勉強を一生けん命がんばり、「だれかがやってくれる」じゃなく「私がやる」という気持ちを忘れずに、これからもいろいろなことにちょうせんしていけるようにがんばっていきたいです。

5年1組 鎌田 凜音

6年生は、

この取組から、目指すべき理想の自分の姿をイメージすることができました。

人のために、人を笑顔に
させられる人に



私は、5年生に「お疲れ様。」「いい思い出はできた?」という気持ちでプレゼントを作りました。

～中略～

5年生がお返しに来てくれました。5年生の発表を聞いていると「6年生のおかげで疲れが吹っ飛びました。」と言われたとき、「頑張って作ってよかったな、そう思ってくれてよかった。」と一番心に残りました。

私は、このことがあって、人のために、人を笑顔にさせられる人になりたいと思いました。5年生の発表は高学年らしいと思いました。また、だれかを喜ばせたいです。

6年1組 中川 奈緒

